

ふかみいけ
深見池

田園の中の素朴な池

深見池は最大深度8.5m、周囲700mの天然の湖。伊那谷では最大の天然湖である。1662(寛文2)年の大地震の時にできた大きな地すべりの窪地に七つの池ができ、それがひとつになってできたといわれる。この時の地すべりは第三紀層地すべりであり、土塊は天竜川対岸の我科まで届いている。周囲が丘に囲まれていて風による水の循環が少ないため、夏期には水面下4mより深い層には酸素が届かず、硫化水素を含むようになる。水中の硫酸イオン量が多い火山や汽水地域でないにもかかわらず、夏期の光合成硫黄細菌層が発達するのは大変珍しい。国際学会でも発表され、「LAKE FUKAMI IKE」として国際的にも著名

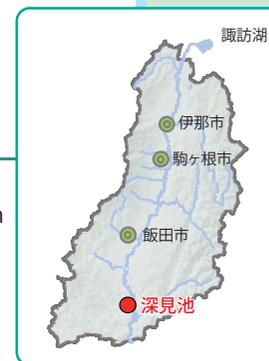


深見池全景



information

- アクセス
飯田山本ICから24km
車→30分
- 所在地
阿南町東條



光合成硫黄細菌

光合成を行って生育する細菌。硫化水素などを利用するので酸素を放出しない。深見池では深さ4~6m付近で厚い層をつくり、窒素・リン酸などの栄養分を消費するため、アオコの発生が少なく水の汚濁が進まない。

祇園祭

水田に囲まれ段丘のくぼみにできた大きな水たまりといった感のあるこの池で、7月第4土曜日に行われる祇園祭。神事を行った後、湖上から花火を打ち上げる。県指定無形民俗文化財。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)